

第106期 事業報告・連結計算書類・計算書類



中電工



中電工
キャラクター
チューデンコーギーの
こうじろう

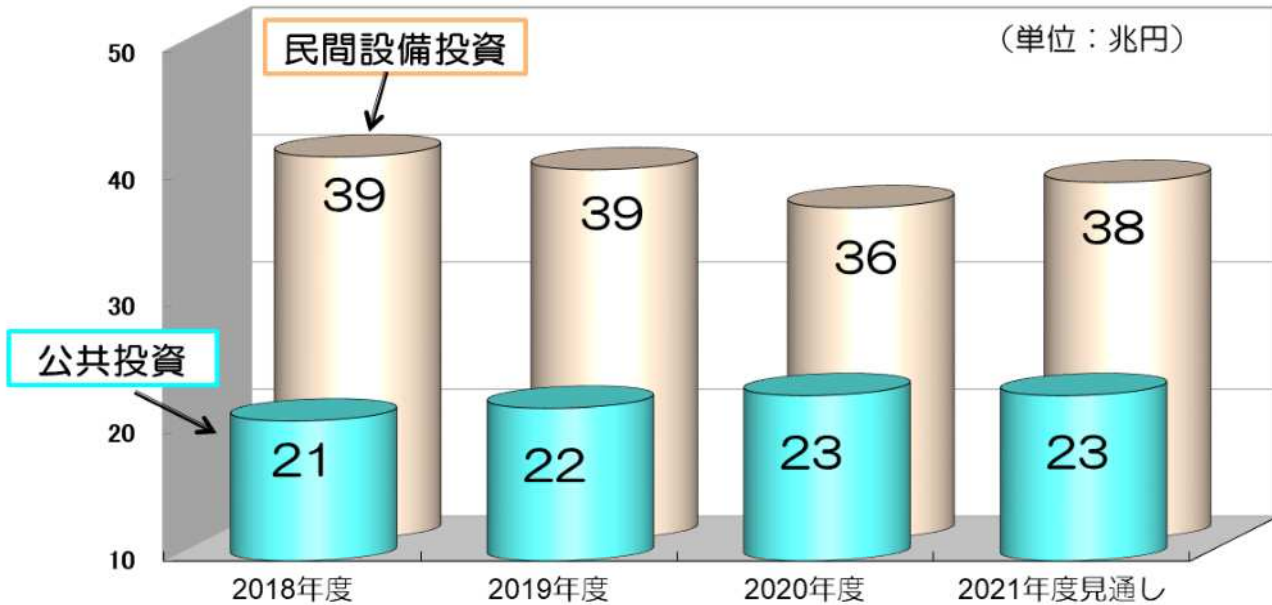
第106期 事業報告 「事業の経過およびその成果」



中電工

建設投資

(一般財団法人 建設経済研究所)



当期の事業環境は、公共投資は高水準にあり、民間設備投資に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい受注競争や労働者不足、原材料価格の高騰に加え、コロナ禍の影響が懸念される状況にありました。

当社グループの取り組み

《 中期経営計画2024〔2021～2024年度〕 》

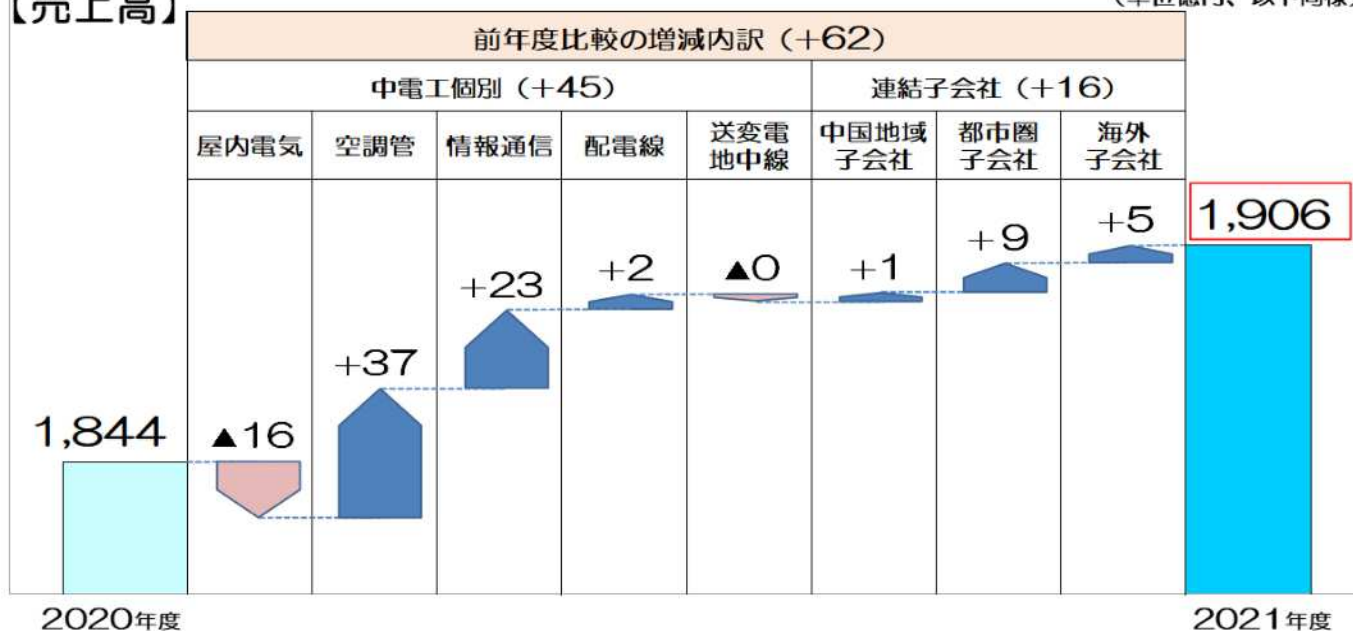
- 中期経営計画に掲げる諸施策を推進
 - ◆ 中国地域の基盤強化
 - ◆ 都市圏の事業拡大
 - ◆ 業務改革の推進 等

こうした中、当社グループは、2021年度から2024年度までの「中期経営計画2024」に基づき、中国地域の基盤強化や都市圏の事業拡大、DXによる業務改革の推進等の諸施策を進めてまいりました。

当社グループ（連結）の業績

【売上高】

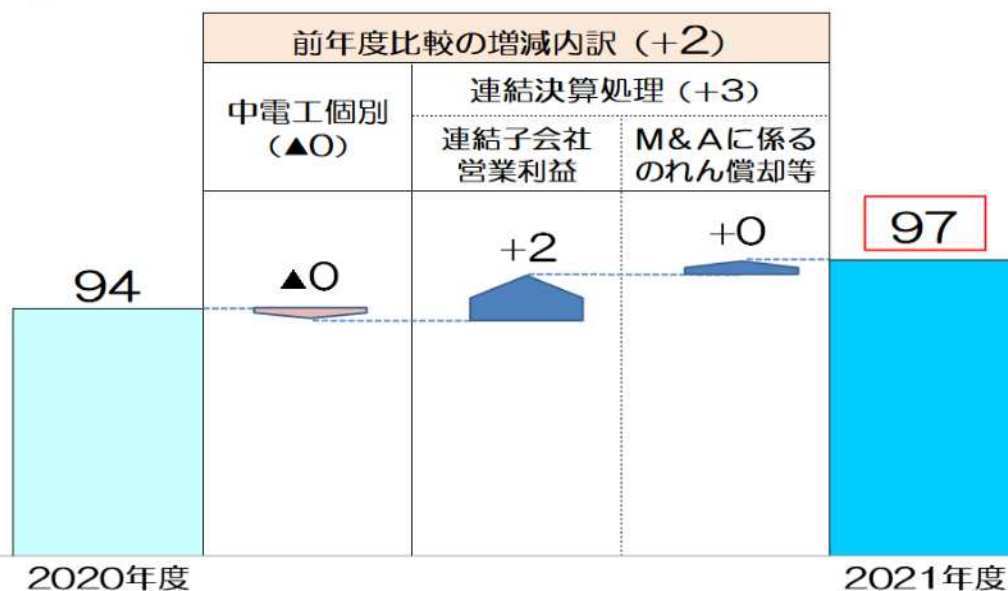
（単位：億円、以下同様）



売上高は、空調管工事や情報通信工事に加え連結子会社の増加などにより、前期比62億円増の1,906億円となりました。

当社グループ（連結）の業績

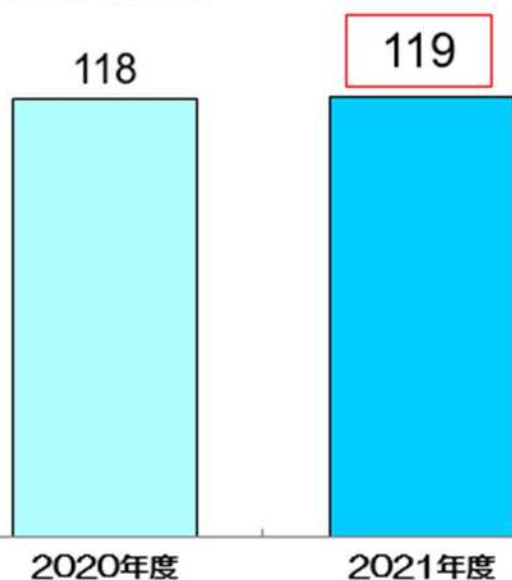
【営業利益】



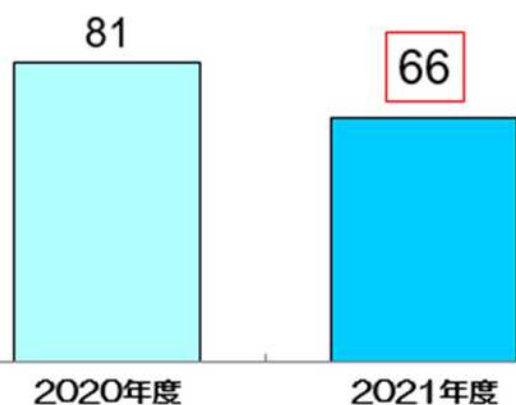
営業利益は、中電工個別ではほぼ前期並みとなりましたが、連結子会社の増加により、前期比2億円増の97億円となりました。

当社グループ（連結）の業績

【経常利益】



【親会社株主に 帰属する当期純利益】



経常利益は、営業利益の増加などにより、前期から微増の119億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加はあったものの、投資有価証券売却益の減少や関係会社株式評価損の計上などにより、前期比14億円減の66億円となりました。

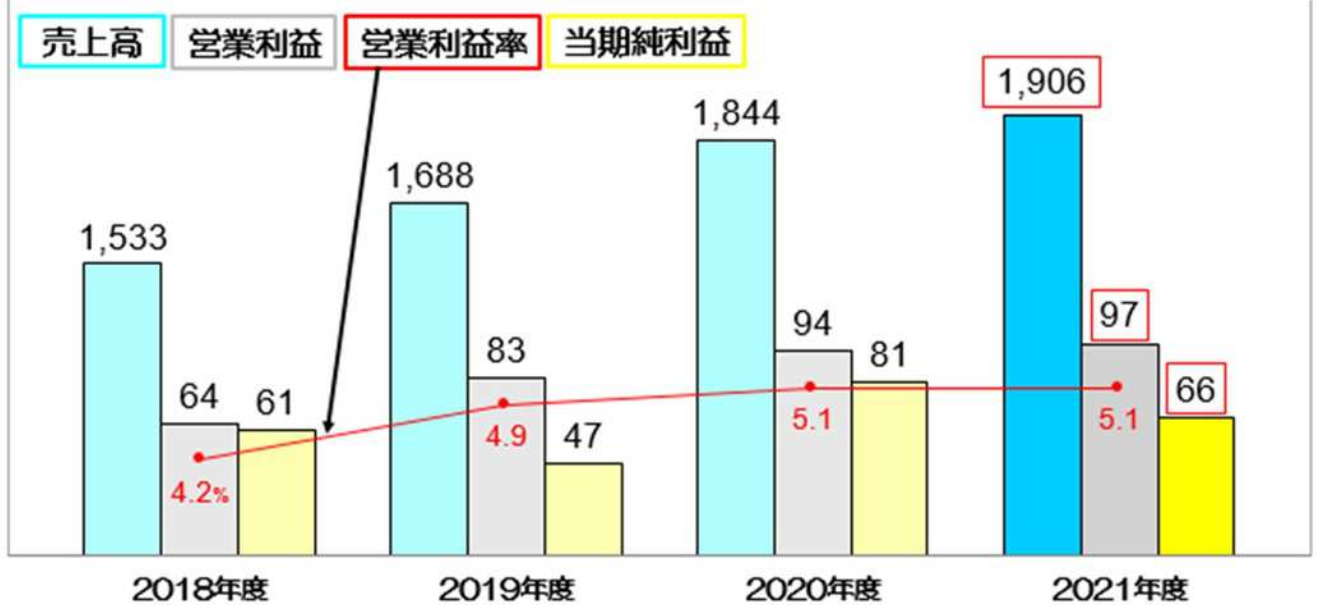
第106期 事業報告 「財産および損益の状況の推移」



CHUDENKO

中電工

売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益 (当社グループ)

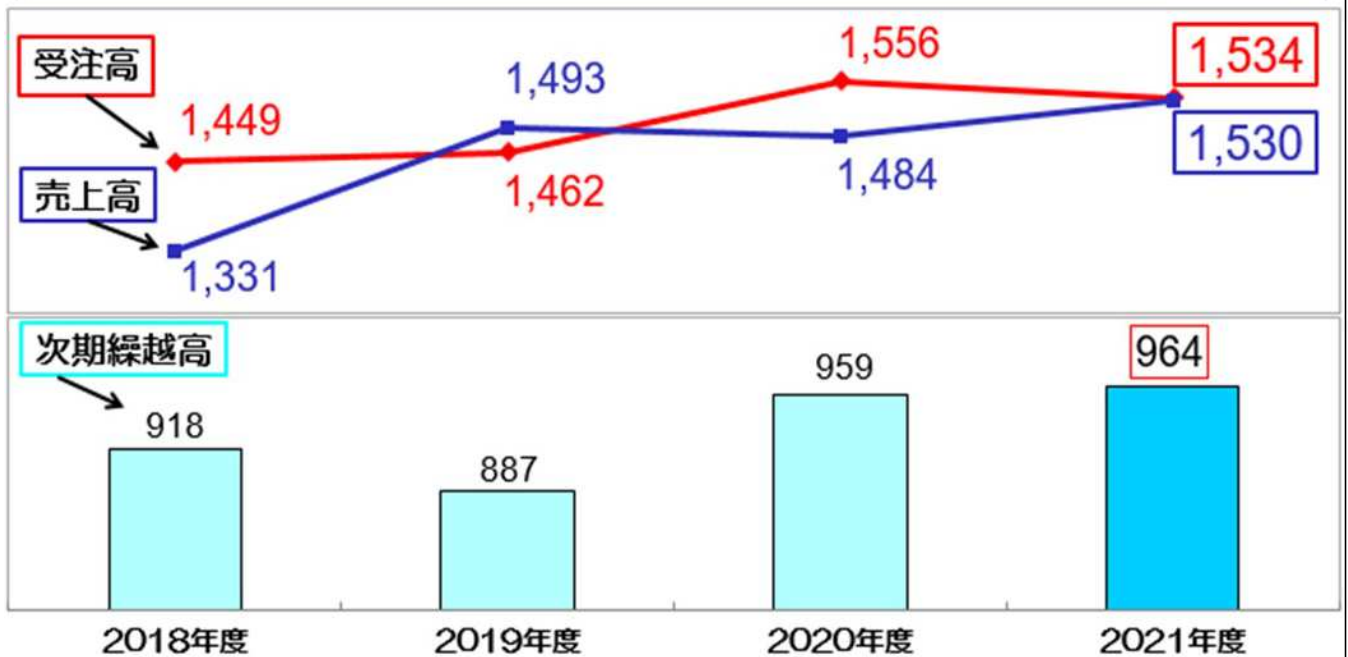


売上高につきましては、2012年度から増収が続いており、当期で10期連続の増収となりました。

営業利益は、2019年度から3期連続の増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、2期ぶりの減益となりました。

受注高・売上高・次期繰越高（当社個別）



赤い線で示す受注高は前期に届かなかったものの、1,534億円と高い水準を維持しており、青い線で示す売上高は、前期を上回る1,530億円となり、直近4年で最高となりました。

また、次期繰越高も、前期から4億円増加し、過去最高の964億円となりました。

第106期 連結計算書類



CHUDENKO

中電工

連結貸借対照表（要旨）

（1）資産の部

区 分	2020年度末	2021年度末	増 減	
			金 額	比(%)
流 動 資 産	1,082	1,149	66	6
固 定 資 産	1,682	1,647	△34	△2
有 形 固 定 資 産	353	354	0	0
無 形 固 定 資 産	91	80	△11	△12
投 資 等	1,236	1,212	△24	△2
合 計	2,765	2,797	32	1

資産の部でございますが、流動資産は1,149億円で、前期末に比べ、66億円増加し、固定資産は1,647億円で、前期末に比べ、34億円減少いたしました。

以上により、資産合計は前期末に比べ、32億円増加の2,797億円となりました。

連結貸借対照表（要旨）

(2) 負債純資産の部

区 分		2020年度末	2021年度末	増 減	
				金 額	比(%)
	流 動 負 債	439	488	48	11
	固 定 負 債	137	145	7	6
	負 債 合 計	577	633	56	10
	純 資 産 合 計	2,187	2,163	△24	△1
	合 計	2,765	2,797	32	1

負債につきましては、流動負債は488億円で、前期末に比べ、48億円増加し、固定負債は145億円で、前期末に比べ、7億円増加いたしました。

負債合計は、633億円となり、前期末に比べ、56億円増加いたしました。

純資産合計は、2,163億円となり、前期末に比べ、24億円減少いたしました。

連結損益計算書（要旨）

区 分	2020年度		2021年度		増 減	
					金 額	比(%)
売 上 高		1,844		1,906	62	3
営 業 利 益	(5.1%)	94	(5.1%)	97	2	3
経 常 利 益	(6.5%)	118	(6.3%)	119	0	1
親会社株主に帰属する 当期純利益	(4.4%)	81	(3.5%)	66	△14	△18

連結損益計算書につきましては、当社グループ（連結）の業績（本資料の5～7ページ）にて、説明したとおりでございます。

第106期 計算書類



中電工

貸借対照表（要旨）

（1）資産の部

区 分	2020年度末	2021年度末	増 減	
			金 額	比(%)
流 動 資 産	827	852	24	3
固 定 資 産	1,734	1,707	△26	△2
有 形 固 定 資 産	308	306	△1	△0
無 形 固 定 資 産	12	11	△0	△4
投 資 等	1,413	1,388	△24	△2
合 計	2,562	2,559	△2	△0

資産の部でございますが、流動資産は852億円で、前期末に比べ24億円増加し、固定資産は1,707億円で、前期末に比べ26億円減少いたしました。

以上により、資産合計は前期末に比べ、2億円減少の2,559億円となりました。

貸借対照表（要旨）

(2) 負債純資産の部

（単位：億円）

区 分	2020年度末	2021年度末	増 減	
			金 額	比(%)
流 動 負 債	331	349	17	5
固 定 負 債	132	130	△1	△1
負 債 合 計	464	480	16	4
純 資 産 合 計	2,098	2,079	△18	△1
合 計	2,562	2,559	△2	△0

負債につきましては、流動負債が349億円で、前期末に比べ17億円増加し、固定負債は130億円で、前期末に比べ1億円減少いたしました。

よって、負債合計は480億円となり、前期末に比べ16億円増加いたしました。

純資産合計は、2,079億円となり、前期末に比べ18億円減少いたしました。

損益計算書（要旨）

区 分	2020年度		2021年度		増 減
					金 額 比(%)
売 上 高		1,484		1,530	45 3
営 業 利 益	(5.5%)	81	(5.3%)	81	△0 △0
経 常 利 益	(7.1%)	105	(6.9%)	106	0 1
当 期 純 利 益	(5.3%)	78	(4.2%)	63	△14 △18

売上高は、前期比45億円増の1,530億円となりました。

営業利益は前期と同程度の81億円、経常利益は微増の106億円、当期純利益は前期比14億円減の63億円でした。

第106期 事業報告 「対処すべき課題」



中電工

当期の総括および今後の事業環境

当期の総括

- 中期経営計画2024がスタート
- 10期連続の増収、3期連続の営業利益増益
- 売上高・営業利益ともに当初予想を達成

今後の事業環境

- 資源の高騰や製造業における部品の調達難に加え、コロナ禍やウクライナ情勢の影響など不透明な状況

「中期経営計画2024」の初年度となる当期は、10期連続の増収、3期連続の営業利益増益となり、売上高・営業利益ともに当初予想を達成するなど、ますますのスタートを切ることができました。

しかし、今後の事業環境は、資源の高騰や製造業における部品の調達難に加え、コロナ禍やウクライナ情勢の影響など不透明な状況にあります。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

創立80周年となる2024年度をターゲットに、中電工グループの更なる成長に向けた4ヶ年計画

テーマ 「変革と成長」

サブテーマ

「営業・施工体制の強化と利益の拡大」

- 中国地域の基盤強化、都市圏の事業拡大に引き続き取り組み、受注の拡大と施工体制を強化
- 施工の効率化、コスト低減等による利益の確保・拡大と競争力強化

「DXと脱炭素化の推進」

- DXによる生産性向上を推進
- カーボンニュートラルに向けて自社の脱炭素化とともに、自家消費型太陽光PPA事業などお客様の脱炭素化をサポート

こうした中、当社グループは「中期経営計画2024」のテーマである「変革と成長」の実現に向けて、「営業・施工体制の強化と利益の拡大」および「DXと脱炭素化の推進」を図るべく、引き続き中期経営計画の5つの主要施策に取り組んでまいります。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

《 主 要 施 策 》

- ① 受注の拡大・施工体制の強化
- ② 利益の確保・拡大と競争力強化
- ③ 人材育成の強化と働き方改革の推進
- ④ 品質の向上
- ⑤ 成長投資(M & A・出資等)による事業拡大

主要施策は2021年度の結果を踏まえ、一部施策を追加して取り組むこととしており、具体的には次のとおりでございます。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

① 受注の拡大・施工体制の強化

- ◆ 営業力の強化による受注拡大
- ◆ 実績データの分析やBIM等を活用した設計力の強化・向上
- ◆ 施工体制の強化・拡充
- ◆ グループ企業との連携強化

まず、受注の拡大と施工体制の強化では、提案営業の強化、デジタル技術の活用、そしてグループ企業との連携強化やM&Aに取り組んでまいります。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

② 利益の確保・拡大と競争力強化

- ◆ 工事の平準化やフロントローディング等による施工の効率化
- ◆ 全社およびグループ企業と連携したコスト低減
- ◆ DXの推進による生産性向上

利益の確保・拡大と競争力強化では、特に大型工事の利益の確保・拡大のため、DXによる効率的な施工と原価管理の強化を図ってまいります。

また、中型工事や追加工事の確保により、利益率の向上に取り組めます。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

③ 人材育成の強化と働き方改革の推進

- ◆ 施工管理の強化に向けた人材育成
- ◆ グループ全体での技術・技能者の確保・育成
- ◆ 働き方改革の継続および実践，働きがいのある職場の形成

次に人材育成の強化と働き方改革の推進では、引き続き人材の確保と育成にグループ大で取り組むとともに、業務改革やDX推進など生産性を上げることで、働き方改革を進めてまいります。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

④ 品質の向上

- ◆ 電力安定供給への確実な貢献
- ◆ お客様満足度の向上

品質の向上では、施工した設備の仕上がりはもとより、工事プロセス毎にチェック機能を強化し、お客様にご満足いただけるよう、品質向上に努めてまいります。

また電力関係では、災害等緊急時の迅速な対応を行うため、中国電力ネットワークとの連携強化に努めております。

中期経営計画2024（2021～2024年度）

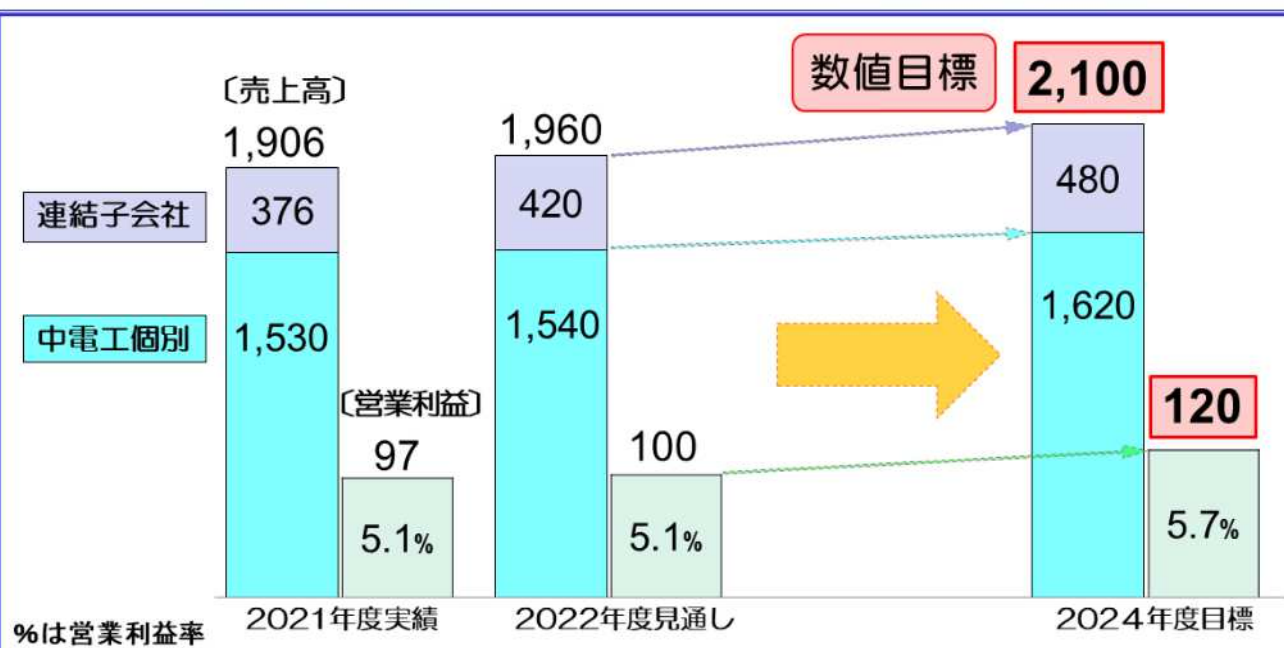
⑤ 成長投資(M&A・出資等)による事業拡大

- ◆ 自社の脱炭素化
 - ・ 自社社屋への自家消費型太陽光発電の設置など
- ◆ 脱炭素化支援として環境関連ビジネスの推進
 - ・ 自家消費型太陽光PPA事業など
- ◆ 施工体制の強化等に向けたM&Aの推進
- ◆ 技術研究開発の推進

最後に成長投資による事業拡大では、M&Aや再エネなどへの投資を検討しております。

また、当社の脱炭素化とともにお客様への脱炭素化サポートとして自家消費型太陽光PPA事業やZEB化など環境関連ビジネスを推進してまいります。

中期経営計画2024（2021～2024年度）



以上の主要施策を着実に実施し、この中期経営計画の最終年度である2024年度の数値目標、連結売上高 2,100億円、連結営業利益 120億円の達成を目指してまいります。

また、プライム市場上場会社として、より高いガバナンス体制を整え、持続的な成長と企業価値のさらなる向上に努めてまいります。



株主の皆様におかれましては、今後とも、当社グループ
の事業に格別のご理解とご支援を賜りますよう、お願い
申し上げます。